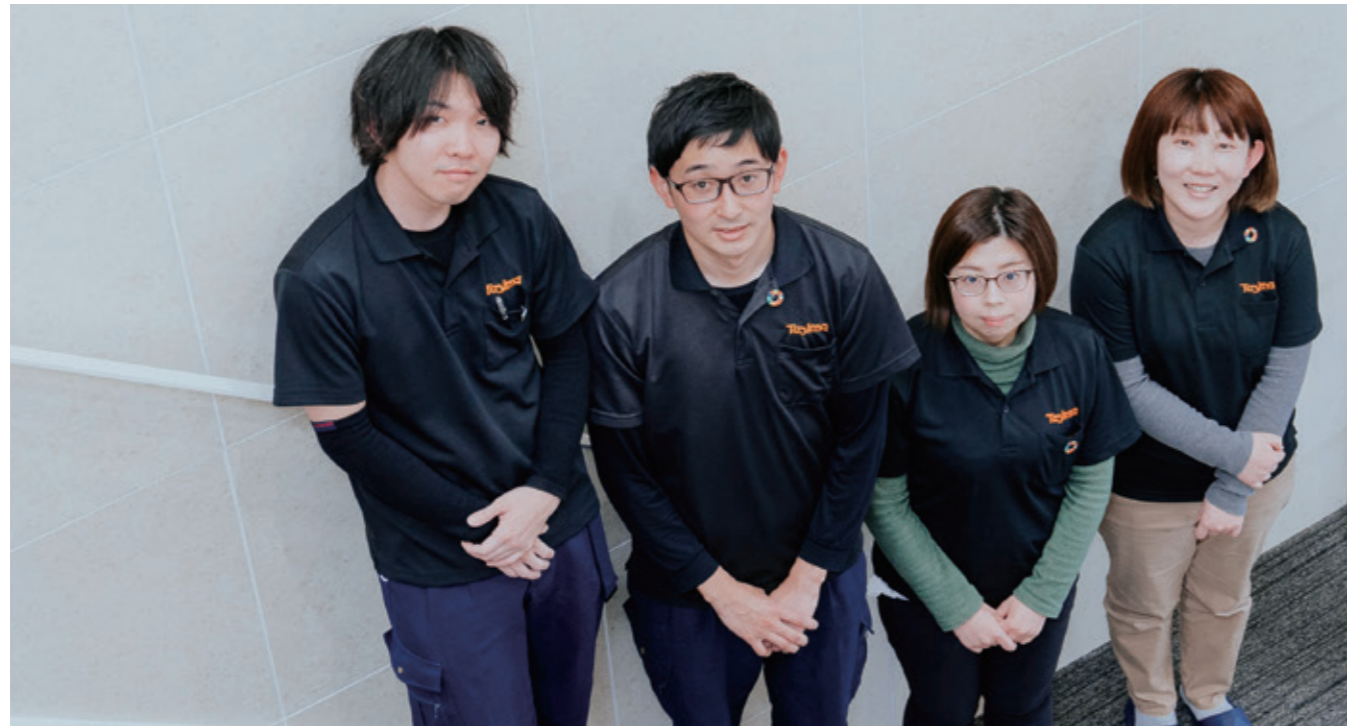


SDGs に向かう様々な取り組み

そして全業務をSDGsの視点で徹底して精査する。まず、主業務であるチューブの製造プロセスでは、洗浄過程における有機塩素化合物トリクロロエチレンの削減に取組む。新洗浄機の開発などで使用量60%削減を達成。排気装置の設置でさらに働く環境を整えた。また、太陽光発電パネルを設置し、CO₂削減の数値目標を明確にした。

雇用・働き方に関する取り組みとしては、まず障害者雇用が挙げられる。2018年6月より、群馬県立館林高等特別支援学校の生徒を対象に就業体験を実施し、2020年4月から新入社員として雇用。育児介護休暇、ノー残業デー、ハラスメント防止

SDGs プロジェクトメンバーは毎月定例のミーティングを開催し、SDGs に向けた取り組みを推進し続けている。



まず必須となるのは全社員がSDGsの理解を深める学びの機会だ。カードゲーム『2030 SDGs』を用いた学習会を定期的を実施し、社内テストで理解度を評価する。「社内評価の『レベル』は、SDGsの評価項目に関する知識。『レベル2』は弊社が取り組むSDGs活動に関する理解。自分自身が社内で取り組んだことを報告書にし、評価されれば『レベル3』で、現在、全社員が『レベル4』までクリアしています」（山田氏）。

メンタルヘルスに関するストレスチェックなどの制度も拡充した。教育研修ではeラーニングを全従業員に導入。「コロナ禍で社外講習の受講が難しい状況で、語学やプログラミングなど幅広いビジネススキルの学習機会を提供した。



代表取締役社長
手島 由紀子

1972年生まれ。群馬県出身。短大を卒業後、貿易会社に勤務。1996年に渡米。語学と経営学を学び、一時帰国ののち再び渡米する。2008年にMBA（経営学修士）を取得。帰国後の2014年、手島精管株式会社代表取締役社長に就任。2019年には群馬県総合計画策定の有識者メンバーに起用。

to SDGs
手島精管株式会社 INTERVIEW 001
SDGs を自分事に。

精密ステンレスチューブのメーカーとして50年を超える歴史を持つ手島精管株式会社。高い技術力で作り出される製品、とくに医療注射針はワクチン用としても活用され、国内外でさらに注目が高まっている。そんな中、事業の社会的意義をモチベーションに働く社員にとって、さらにポジティブな影響を与えるのがSDGsにおける取り組みだ。一人ひとりが当事者意識を持ち、同活動に参加するその姿勢を見つめてみたい。

TEXT BY KOSUKE YUZUKI PHOTOGRAPHS BY SHOGO SATO DIRECTION BY FUMITO INOUE



**社内のSDGs
プロジェクトチームを発足**

同社のSDGsの取り組みは2020年、群馬県がSDGsの総合計画策定のための有識者メンバーとして、歴史ある地元企業を承継し大きく成長させた手島由紀子代表に就任を打診したことがきっかけで始まった。手島代表は早速、SDGsに関する社内組織の発足を決定。通常業務で出荷梱包リーダーを務める山田芳美さん率いるプロジェクトチームが立ち上がった。さらにSDGs経営のコンサル、独自の認証を手掛ける一般社団法人日本ノハム協会に審査を依頼。活動計画の策定とモニタリングを行う組織と、活動を外部評価する仕組みが、短期間でできあがった。

手島氏のSDGsへの考え方の特徴は、徹底した「現場主義」にある。プロジェクトの立ち上げを決定後、運営の権限を速やかに移譲し自らは手を離れた。「SDGsは、働く一人ひとりが当事者意識を持つことではじめて意味を持ちます。たとえば私が『地球のCO₂を減らそう』など大きな目標を掲げても、誰も自分事とは思えないはず。弊社の二つの業務がいかに持続可能でありえるのか、現場を良く知る社員が、日々の実務に即して考えられる仕組みにしなければなりません」と思ったのです。

**現場主義、
全員参加の姿勢を浸透させる**

同社のSDGsプロジェクトチームは、山田さんをはじめ各部署から若手社員が集まり運営。各々の部署で行うSDGs関連の活動と、新たなアイデアを取りまとめ、環境



本社屋の屋上に設置した巨大ソーラーパネルも、環境への負荷低減に向けていち早く取り入れた手島精管。